

ご 挨拶 — 仙台秋田県人会創立 90 周年に当たり —

今年、昭和初頭に仙台秋田県人会（旧在仙秋田県人会）が発足して 90 周年という節目の年を迎えることとなりました。設立当時は、金融恐慌、南京事件、張作霖事件など世情騒然とし、また、仙台は第二師団が置かれた軍都でもあり、軍靴の高まりが身近に感じられた時代でありました。そしてまた幕藩体制が終焉し未だ 60 年弱、北上線が開通し、秋田仙台間がようやく鉄路で結ばれた頃であり、仙台在住の秋田出身者は、決して多くはなかったものと思われまふ。そんな状況の中で先人の皆様が、故郷を偲び、身を寄せ、心をいやす拠りどころとして立ち上げられたものと思います（戦争と戦後の混乱期を経たため、記録も散逸し当時の詳細を知ることができないのが残念です）。以来連綿と継続され、昨今では、総会に 100 名以上の会員が集い、秋田弁が飛び交う中で秋田の漬物を食し、地酒を酌み交わしながら和気あいあいと交流するまでになったことは、大変喜ばしいことです。これも偏に草創期における先人の皆様のご英断、戦中戦後の大変困難な時期を担われた方々のご努力、そして会員皆様方の故郷秋田への強い思いが今日の仙台秋田県人会をつくりあげたものであり、敬意を表するとともに感謝申し上げたいと思います。

90 周年を迎えるにあたり当会は、記念事業実行委員会を立ち上げ、訪秋ツアー、ゴルフ大会、記念名簿の作成、ふるさと納税支援キャンペーン等の企画し、そして実施してまいりました。先日、当会として初めての訪秋ツアーでは、一行 20 名で秋田県知事、仙北市長、秋田銀行頭取を表敬訪問し、暖かい歓迎を受けました。それぞれ皆様が秋田の明日について熱い思いを語っておられたことに一同感動し、故郷への思いを新たにいたしました。翌日は、観光振興の一助にと内陸線のお座敷列車でマタギの湯に宿泊し、さらに次の日、蔵の町増田を見学させていただき故郷を体感いたしました。一行は、改めて故郷の心地よさを感じさせていただいた秋田の旅でした。

そんな故郷秋田では今、「人口減少問題の克服」と「地方創生」の重要課題に取り組むためのツールの一方策として県人会ネットワーク化推進事業を推進されております。去る 7 月には、仙台で東北地区の県人会ネットワーク化推進会議が開催され、趣旨説明、各県人会の現状報告さらには意見交換がなされました。秋田の魅力の発信役、事業の橋渡し役を期待されており、また、郷土と連携して社会、経済、文化の交流に努めるという本会の目的に沿うものでもあり、会員の皆様のご意見をいただきながらホームページの充実等を図り、連携を進めていきたいと思ひます。

改めて 90 周年という節目の年あたり、来し方に思いを馳せつつも次の 100 周年に向かってより一層会員親睦を深めながら、皆様とともに力強く歩むスタートの年にしたいと考えております。よく故郷は、何にも代え難い母のようなものと云われます。所謂ふるさと母親論ではありますが、同じ秋田という故郷、同じ秋田という DNA を持つ者同士が絆を強くして「仙台秋田県人会」をより活力あるものにしてまいりたいと考えております。会員皆様方のご協力そして何よりも積極的な参加をお願い、挨拶といたします。